

平成29年度 園芸事業推進対策について

園芸部



本県の園芸生産をとりまく現状は、高齢化などによりリタイアする生産者が増加しており、ゆるやかな減少傾向にあります。

一方では大規模生産者の拡大、新規就農者や営農組織等による園芸品目作付導入など、積極的な取り組みも増えています。

また、コメ政策の見直し等により関係各位からはこれまで以上に園芸事業への期待が高まっている実態にあります。本会はこれらをふまえ、園芸主産地として継続されるよう種々の対策を講じながら、担い手の生産拡大と所得拡大に取り組んでいきます。

本年度は、重点市場・重点販売先から求められる園芸品目を安定供給するため、反収向上や生産拡大対策に取り組めます。

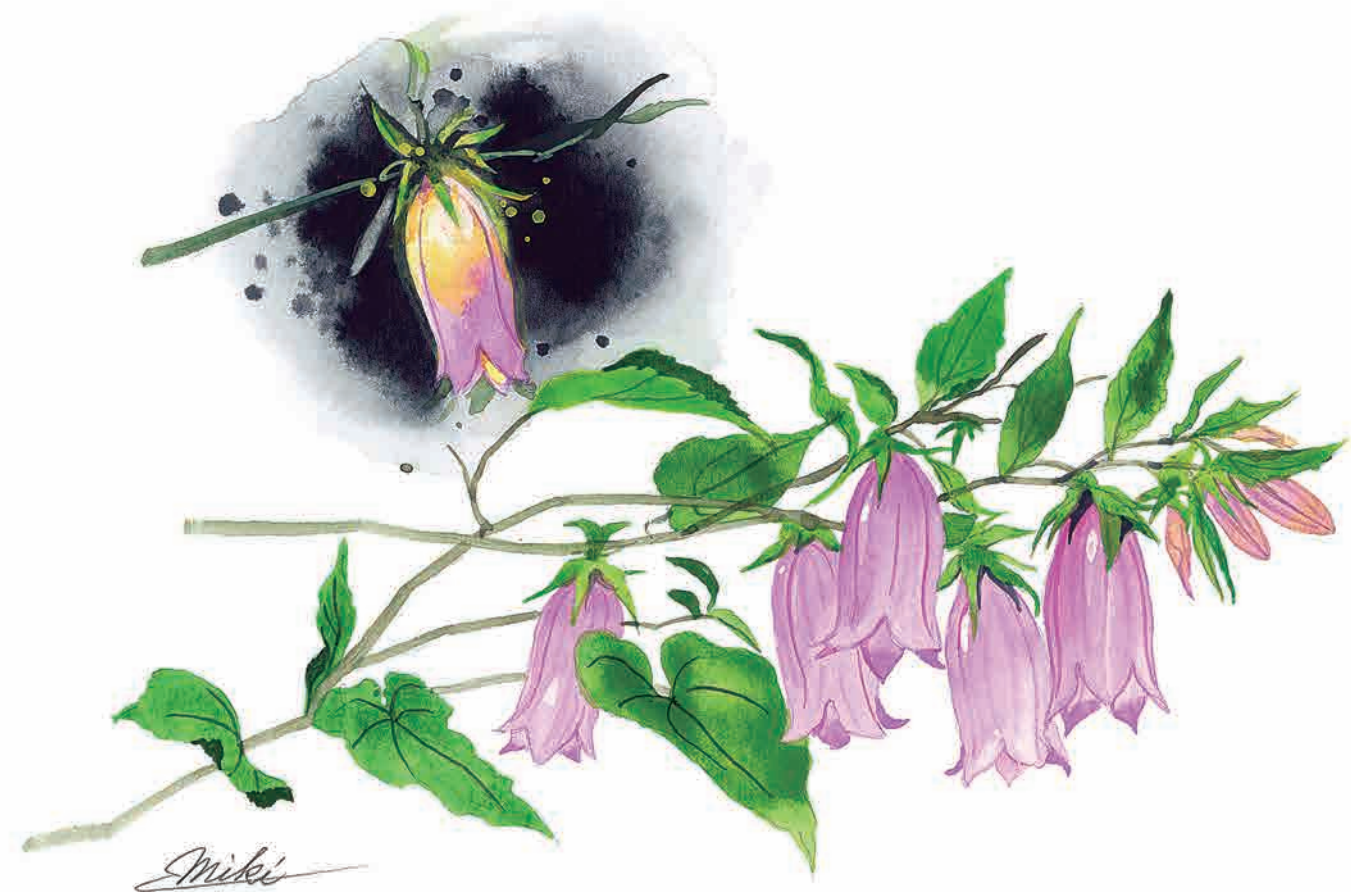
反収向上については、県の技術指導やJA営農指導員と連携し、技術対策をすすめるとともに、支援対策として園芸産地確立事業による助成を行います。生産拡大については、新規生産者および営農組織等への園芸品目導入、加工・業務用野菜生産、秋冬品目生産を推進し、支援対策として園芸産地確立事業による助成を行います。また、取引先ニーズによる消費地提案を契約的販売や買取販売等を活用し、大型経営体等へ推進します。

販売強化対策として、いわての特徴を生かした「オールいわて」としての販売を強化するとともに重点市場・重点販売先との契約的取引を拡大します。また、品質競争力の向上をすすめるとともに重点市場・重点販売先におけるフェア等販売促進対策を拡大し、「純情産地いわて」の指定席を確保します。

生産コスト低減対策として、各品目の反収向上対策をすすめ、流通面では、流通資材の改善や輸送手段の安定的確保に取り組めます。

〔平成29年度基本方針〕

- マーケットインによる生産振興
- 「オールいわて」としての販売戦略構築による販売強化
- 生産コストの低減



季節のエッセー
いわての野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「ホタルブクロ」

(キキョウ科)

この花の中にホタルを入れたら、さぞかし幻想的だろう。しかし、身のまわりからきれいな水辺が失われてしまった今では、それは本当に幻の明かりだ。近年、「ホタルを町に呼び戻そう」という声が、各地で高まっているが、そんなところで戻って来るのは、田んぼにも発生できる小型のヘイケボタルだろう。大型のゲンジボタルは清流性で、呼び戻すにはたいへんな努力を要する。名古屋市では、わざわざボーリングをして地下水を汲み上げている。その花期をとうに過ぎたころ、冷風の吹き出す岩泉の洞窟の前で、咲き残っているホタルブクロを見つけた。傍らを流れる安家川は、残り少ない清流の一つ。川底には、氷河期の生き残りであるカワシンジュガイと、ゲンジボタルのエサであるカワナナが。ここなら、名実ともに「虫袋」である。

参考資料：澤口たまみ著『岩手の野草百科』（岩手日報社発行）より

純情産地発
クララ

みんなの力で!

がんばろう!岩手
純情産地いわて

KLARA

vol.816
2017.7

contents

季節のエッセー いわての野草 02
特集
 平成29年度園芸事業推進対策について ... 03
 消費地だより 06
 銀河食堂info 06

みんなの分教場 07
 報告!出向く活動班 08
 2017純情むすめ決定 09
 純情人 09
 ニュースワイドアングル 10

タイトルのKlara (クララ) は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

【行動計画】

実行具体策	行動計画	
	29年計画	28年実績
1.園芸品目買取販売の拡大 (1)実需者ニーズに基づく生産の実施 (2)取引先拡大と営業強化	700百万円	497百万円
2.加工業務用野菜の拡大 (1)マーケットイン戦略に基づく需要の掘り起こし (2)生産拡大に向けたJA、行政との連携強化	660百万円	610百万円
3.青果物用段ボールの規格統一によるコスト低減 (1)JAとの協議による規格統一品目の設定 (2)段ボール規格・材質等最適化の検討 (3)段ボール統一規格の設定	7品目	4品目
4.青果・花きの反収向上に向けた営農指導員の指導力強化 (1)園芸産地改革ネットワーク部会での生産・技術課題の解決と新技術普及（現地研修会・検討会） (2)県農林水産部並びに農業改良普及センターとタイアップ	研修会・検討会 30回	研修会・検討会 30回
5.園芸大型経営体の育成 (1)担い手への規模拡大提案およびフォロー実施 ア.推進候補者のピックアップ イ.販売契約先の確保 ウ.提案具体策の検討（JA・生産者・全農）	提案件数75件	提案件数65件

推進方法(手法と役割)

推進手法	対応者
ステップ1 ↓ 訪問組織のリスト化	・ JA-TAC ・ 中央会担い手サポートセンター
ステップ2 ↓ リスト先訪問による園芸品目導入推進 ○推進品目チラシ配布	・ JA-TAC ・ 中央会担い手サポートセンター
ステップ3 ↓ 導入意向あり組織への再訪問による導入検討協議 ○品目別作型表 ○品目別収支表 ○支援事業 ○買取等の販売方法などの説明	・ JA園芸課 ・ 全農園芸部 ・ JA-TAC ・ 中央会担い手サポートセンター
ステップ4 ↓ 作付決定 ○栽培方法、出荷方法 ○販売方法の具体的協議	・ JA園芸課 ・ 全農園芸部 ・ (JA-TAC) ・ (中央会担い手サポートセンター)
ステップ5 ↓ 作付後の定期訪問によるサポート	・ JA園芸課 ・ 全農園芸部 ・ (JA-TAC) ・ (中央会担い手サポートセンター)

1. 推進方法(手法と役割)

この推進方法については、岩手県中央会担い手サポートセンターと、日ごろ担い手訪問を行っているJA-TACに協力してもらい、園芸品目の推進チラシを配布しながら、導入意向のある組織や園芸に興味ある組織を全農園芸部に紹介してもらい、ボタンタッチした園芸部職員が再訪問し、導入を促していくものです。

また、すでに園芸品目を導入している営農組織等でも秋冬野菜品目を推進し、稲作と多数の園芸品目を組み合わせて周年的に所得が確保できるように推進していきます。

JA-TACとの連携強化による
営農組織等への園芸品目導入提案

次に、生産基盤拡大対策の中から「営農組織（集落営農・営農法人等）への園芸品目導入提案」について紹介します。



県知事、JA会長、JA組合長によるトップセールス

1. 生産基盤拡大対策

- 反収向上対策
ア 園芸産地改革ネットワークにより、県およびJA営農指導員と連携し、反収向上のための技術の実証や普及を実施
イ 園芸産地確立事業により、実証展示圃設置、反収向上対策の支援
- 新規生産者および営農組織等への園芸品目導入提案
ア 新規生産者および営農組織（集落営農組織・営農法人等）へ園芸品目導入を提案
イ 販売については、買取販売とし、生産拡大については、園芸産地確立事業により支援
- 加工・業務用野菜の生産拡大
ア 野菜の需要の6割を占める加工・業務用向けの生産拡大
イ 重点品目 寒玉キャベツ・レタス・タマネギ
ウ 機械化体系の導入（たまねぎ）のため、農機レンタルの実施
エ 生産拡大については、園芸産地確立事業により支援
- 秋冬品目の生産拡大
ア 稲作および園芸生産者の周年生産出荷による経営安定
イ 生産拡大については、園芸産地確立事業により支援
- マーケットインによる産地づくり推進のため、契約的取引と買取販売等を活用した提案（特に大型経営体への提案）
- グループ化の推進による、計画生産・責任供給可能な産地育成
- 全県重点品目の生産拡大
ア 全県重点品目 きゅうり、トマト、ミニトマト、ピーマン、なす、キャベツ、ねぎ、ほうれんそう、レタス、ア

スパラガス、しいたけ、りんご、りんどう、小菊（以上14品目）

イ.生産拡大については、園芸産地確立事業により支援

生産者類型別の主な推進対策

類型	推進対策	上記対策
◇米農家 ◇集落営農組織（新規）	・園芸品目の新規提案 ・加工業務用野菜導入の提案 ・秋冬品目の提案	(2) (3) (4)
◇一般園芸農家	・反収向上対策 ・規模拡大対策 ・加工業務用野菜導入の提案 ・秋冬品目の提案 ・グループ化	(1) (7) (3) (4) (6)
◇大規模園芸農家	・反収向上対策 ・加工業務用野菜導入の提案 ・秋冬品目の提案 ・販売先の提案 ・グループ化	(1) (3) (4) (5) (6)



加工業務用タマネギ 機械化体系（定植風景）



農指指導員表彰式、
若手生産者研修会

2. 販売強化対策

- 重点市場・販売先への長期・安定供給実現に向け、JA間・集荷場間の連携などによる「オールいわて」としての責任供給体制強化
- 産地直送販売の拡大と契約的取引（予約・相対取引、直接契約取引）の拡大

- 実需者および加工業務事業者との連携強化
- 生産情報の的確な把握による、情報販売・計画販売の強化

- 重点市場・重点販売先におけるフェア、産地交流会等の販売促進対策の拡大
- 生産技術のレベルアップ、品質クレームへの迅速対応、目揃え会および検査体制の充実による品質競争力の強化
- 地域および全県ブランド品目の販売強化
- 消費地からの情報（販売状況・品質評価等）収集・発信の強化

3. 生産コスト削減対策

生産性の改善、反収向上による収益向上策の推進
「園芸産地改革ネットワーク」において反収向上対策をテーマに活動を強化

※輸送の効率化による輸送コスト上昇の抑制と流通資材の改善（段ボールの規格統一等）については継続実施

4. 事業推進体制

- 生産基盤拡大、反収向上、品質競争力強化などを目的とし、JA営農指導員をメンバーとした「園芸産地改革ネットワーク」の活動強化
- 野菜・菌床しいたけ・乾椎茸・花きなどの生産者を含めた協議会活動をつうじての生産者の生産拡大、販売の系統結集推進
- 生産基準の統一、記帳、残留農薬検査、放射性物質への対応など品質チェック機能の強化による安全・安心志向に対応した「純情」ブランドの確立
- いわてファンづくり・固定客確保のため、重点販売先および加工・業務用事業者への営業活動強化

2. 推進目標

（平成29年秋冬品目）平成30年春夏品目）50組織導入

- 品目により推進していく時期があるためスケジュール化による推進。
- 具体的には①秋冬品目はまだ作付に間に合うため8月前半まで推進強化月間とする。②盆過ぎ以降は平成30年産作付に向けた春夏品目を推進強化月間とする。

	TAC紹介目標	→	実導入目標
29年秋冬品目推進	30件	→	20件
30年春夏品目推進	45件	→	30件
平成29年度推進計	75件	→	50件



秋冬品目拡大

3. おわりに

稲作経営中心であった営農組織等が収益性の高い園芸品目導入により経営の安定が図られてきた組織も誕生しています。

新たな園芸品目導入拡大により、地域の重点品目の作付面積が拡大することによって、本県が園芸主産地として維持・拡充されるよう「純情産地いわて」の生産基盤確立に取り組んでいきます。

純情ブランド消費地の「今」をリポートします。

消費地販売部 発

消費地だより



消費地販売課
高橋 司

第25回いわて牛枝肉研究会

6月23日、東京食肉市場において、第25回いわて牛枝肉研究会が開催されました。この研究会は、「いわて牛」の普及拡大及び本県肉用牛の肥育技術の確立を図るため、生産者並びに購買者との相互理解を深め、肉質の向上及び経営意欲の高揚を図ることを目的とし、雌22頭、去勢38頭、計60頭の出品で開催されました。最優秀賞は右手ふるさと農協の石川正好さんが受賞され、3280円

(564kg)の単価がつけました。

また、前日には市場関係・購買者・生産者約80名が集まり購買者懇談会が開催され、大いに盛り上がりしました。研究会は体型、造りが良い牛が多く、生産者の方々の日々の努力が形となる結果となり、非常に高値で取引をしていただきました。当日は、いわて純情むすめも応援に駆け付けセリに花を添えていただきました。市場購買者の方々には「いわて牛」を精一杯応援していただいております。首都圏にも「いわて牛」のファンが沢山いらっしゃいます。畜産情勢は非常に厳しい中ですが、生産者と消費者の懸け橋になるよう「純情産地いわて」として安全・安心かつ美味しい「いわて牛」をお客様に届けるため、日々取り組んでまいります。



第25回いわて牛枝肉研究会

販売成績	頭数	平均枝肉重量	平均販売単価	平均販売金額
雌	22頭	466kg	2,662円	1,237,874円
去	38頭	548kg	2,542円	1,394,352円
合計	60頭	518kg	2,586円	1,336,977円

入賞区分	農協名	氏名	性別	枝肉重量	単価	販売金額
最優秀賞	右手ふるさと	石川 正好	去勢	564kg	3,280円	1,849,920円
優秀賞	いわて花巻	株高田畜産	去勢	541kg	3,120円	1,687,920円
	右手ふるさと	藤田 栄	雌	452kg	3,122円	1,411,144円
	右手ふるさと	佐々木 譲	雌	439kg	3,140円	1,378,460円
優良賞	いわて花巻	株西部開発農産	去勢	594kg	2,805円	1,666,170円
	いわて花巻	高橋 信一	去勢	575kg	2,916円	1,676,700円
	いわて花巻	高橋 雄孝	去勢	599kg	2,810円	1,683,190円
	いわて平泉	佐々木 信行	去勢	548kg	2,901円	1,589,748円
	いわて平泉	佐藤 和弘	雌	419kg	3,007円	1,259,933円

みんなの分教場



園芸部 生産販売課
技術主管
菊池 利行

ハウスの環境制御



試験中のトマトハウス(農業研究センター提供)



日射を計測する装置



制御盤(農業研究センター提供)

■環境制御への関心の高まり

現在、施設園芸では高品質で安定多収を目指すための技術として「環境制御」が注目されています。

生産性を上げるためには栽培環境を適切に制御して光合成を促進することが基本となることから、最先端のハウス(太陽光利用型植物工場等)では気温・湿度・日射量・二酸化炭素濃度などを制御して、高い収量を確保しています。

■環境計測

環境制御を行うためにはその根拠となる植物の生理を理解するとともに、これらの環境要因の計測が必要となります。

近年、施設内環境の「見える化」を目的とした環境測定装置も市販されています。実際、計測を行うことで管理上の問題が整理され、管理改善が容易になります。

■岩手県内での取り組み

岩手県農業研究センターでは平成25年度から中小規模施設の生産性と効率性を向上させるための環境制御技術の試験を行っており、その一部が平成28年度の研究成果「パイプハウスを用いたトマト多収化モデル」として発表されています。

技術の特徴としては①作期の拡大(2月定植12月末まで収穫)、②栽植密度を高める(3.8株/m²)、③誘引の高さを上げ

■環境制御の今後

県内でも先進的な農業者や指導者の関心が高まってきており、研修会等も開催されています。全農いわてもこの技術の発展のために関係者とともに力を入れていくこととしており、今年度はいちごに対する光合成促進機(LPガス利用による二酸化炭素供給)を試験導入することとしています。

いわて純情米の店「銀河食堂」 ポイントカード開始!

いわて純情米の店「銀河食堂」では、より多くのお客様にお料理を楽しんでいただくため、ポイントカード(ランチタイム限定)を作成いたしました。ランチ1回のご利用につき、スタンプ1個捺印いたします。5ポイント貯まりますと、好きなソフトドリンクを1杯サービス。10ポイント貯まりますと、日替りランチ1食をサービスいたします。

カードは店内またはJ A全農いわて管理部総合企画課にて配布しておりますので、お気軽にお声掛けください。そのほか、7月20日(木)までは開店1周年大感謝祭として、プレミアム飲み放題コース5,000円が4,500円とお得になっておりますので、ぜひこの機会にご利用ください。

ランチご利用でスタンプ1個捺印します。

1	2	3	4	好きなソフトドリンクサービス
5	6	7	8	日替りランチサービス

●本カードはご本人のみ対象となります。●ご利用の際は、ご会計時にご提示ください。●予告なくサービスの変更、中止をする場合があります。●紛失などによる再発行はいたしません。

発行日: 年 月 日(発行日から1年間有効)

お名前 _____

カード裏

【ランチ限定ポイントカード】



営業時間 11:00~14:00(月~土)

17:00~22:00(月~金)

定休日(日・祝)

盛岡市菜園1丁目12-25 Enビル1F

電話番号 019-601-5534

カード表

報告!



出向く
活動班



今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
加澤 直志



出向く活動班の取り組みについて
JA-TAC
キックオフ大会

JA全農いわてとJAいわてグループ農業担い手サポートセンター(以下、サポートセンター)は、5月18日に盛岡市のアイーナで「平成29年度JA-TACキックオフ大会」を開催しました。

岩手県内JAの営農・担い手担当部署から約70名が出席しました。JA全農いわてからは小原副本部長、園芸部、資材部が出席し、全農部門別提案として情報提供を行いました。小原副本部長は「目標は担い手・組合員にこれまで以上に儲けていただくこと。TACの皆さんと連携を密にして、同じ目標に向かって組合員の皆さんに評価されるよう取り組んでいきたい」と話しました。

園芸部からの依頼事項として、営農組織・農事法人への新規園芸品目の導入推進について説明が行われ、JA(全農)の課題として、生産基盤拡大対策としての園芸品目の導入を掲げております。園芸部では担い手の生産

拡大、所得拡大にむけた重点取組事項として①反収向上対策、②新規生産者・営農組織等への園芸品目導入、③既存生産者への増反および品目組合せによる周年出荷対策を実施しています。大会では、JA-TACの力をお借りして②の営農組織等への園芸品目導入推進がお願いされました。併せて推進目標件数や園芸品目別・時期別の導入推進行動スケジュールが示されたほか、資材部からはBB肥料大規模対策や農業の担い手直送規格が紹介されました。

園芸推進のイメージは、園芸部で作成したチラシを持って組織等に出向き配布、園芸品目導入に意欲がある(少しでも興味あり組織も含む)といった場合は、その情報を最初にサポートセンターへ情報提供いただき、全農園芸部につないで、JAの園芸部署と連携して再訪問し、導入オファーをしていくという流れです。サポートセンターではJA-TACが単独で訪問した時の情報伝達の流れについて推進イメージを作成し説明しました。

JA全農TAC推進課の宗課長より、TACの活動や担い手組織との接点づくり等、全国の情勢について報告があったほか、同課の村山県担当より、担い手提案ツールや農業ICTについて説明がありました。以上になりますが、第44回



農業ICTの取り組み

JA岩手県大会で決議された3大目標の1つである「農家組合員の所得増大・農業生産の拡大や、その重要施策として掲げている「担い手経営体を中心とした農家組合員のニーズに応える個別対応強化」を具体的に実践していくことが重要です。JA-TACやアドバイザーが部門別提案の情報提供を行い、きっかけづくり(取っ掛かり役)を行っていただくことが、担い手から評価される「JAの出向く活動」、「農家組合員の所得増大」最終的にはJAの事業拡大に繋がるよう取り組んでまいります。

2017
いわて純情むすめが
決定しました

今年は、生産者と消費者に、より身近に感じていただける様々な活動を通じて、幅広い世代へ「純情産地いわて」をPRします。

①趣味・特技 ②好きな言葉 ③純情むすめになつての意気込み

- ①趣味:春〜秋…サーフィン、冬…スノーボード
特技:マシュマロキャッチ(口で食べ物キャッチする)
- ②ウェイン・グレッキーの「打たないシュートは100%外れる」
失敗をこわがらず勇気を持とうと前向きになれるから
- ③生まれも育ちも岩手県の私ですが、まだまだ知らない新たな発見がたくさんあると思います。この機会を楽しみながら「純情産地いわて」の魅力を全国へPRしていきたいです。1年間よろしく願いいたします。



ふるだて じゅんな
古館 純奈

- ①趣味:音楽鑑賞。よくライブやフェスに行きます。
特技:書道。小学校3年生からずっと習っており、段を持っています
- ②なくてはならぬ人となれ
- ③まず、2017いわて純情むすめに選んでいただいたことがとても嬉しいです。私は生まれは盛岡ですが、父の仕事の都合ですぐ引っ越ししてしまい、岩手を知らずにいました。しかし今、ご縁があり岩手に戻ってきました! 自分自身がまずは岩手を良く知り、そして岩手の良いところをもっとたくさんの人に知ってもらうため自分の言葉で伝えていきたいです!



さとう ゆき
佐藤 由紀

- ①趣味:野球観戦、写真
- ②先入観は可能を不可能にする
- ③私は現在盛岡大学の栄養学部で栄養について学んでいます。大学で学んだことを生かしながら、岩手の食材の魅力を岩手から全国へ。全国から世界へ。純情むすめとして発信していきます。1年間よろしく願いします。



うちだ れいな
内田 怜奈

- ①趣味:物づくり、お花観賞
特技:整理整頓をすること、初対面の方とでも仲良くなれること
- ②努力なくして栄光なし
- ③岩手の豊かな自然の中で生産者の方が育てられた、おいしい農畜産物を全国の方々にお伝えできるよう、岩手県のために貢献していきたいと思います。よろしく願いいたします。



ふじさわ ももこ
藤澤 桃子

- ①趣味:カフェめぐり、歌を聴くこと
特技:アナウンス
- ②一度決めたら最後まで頑張る(がんばる)
自分で決めた以上、何事にも最後まで取り組みたいと思っています。「頑張る」はあて字ですが、周りの人、そして自分自身も頑張れやかになるように活動していきたいと考えています。
- ③生まれも育ちも岩手県!岩手のことが大好きです!岩手は温かい人、すてきな自然、そしておいしい食べ物にあふれています。私自身、いわて純情むすめの活動を通していろいろ知っていきながら、様々な方に岩手の良さを発信していきたいと思います。これから1年間よろしく願いします。



きむら あい
木村 愛

JA全農いわての 純情人
(28年度入会) じゅん じょう びと

趣味・特技

サイクリング、スキューバダイビング、紅茶、映画鑑賞、冷蔵庫の中身で料理

現在の担当業務

主に肉豚の集荷・販売業務を担当しております。メイン担当として頑張ります。

これからどんな職員になってみたいか

幅広く経験を積み、生産者に安心感を与えられるような頼もしい職員になりたいです!

その他アピールしたいこと

同期の中で最年長ですが、まだまだフレッシュに頑張ります!



畜産酪農部
畜産販売課
かとう だいち
加藤 大地さん

県内65頭が合格

6月1日(木)・2日(金)

平成29年度前期高等登録審査会

JA全農いわては、6月1日に県南家畜市場、翌日は中央家畜市場において、平成29年度前期高等登録審査会を開催しました。

和牛登録には、「高等登録」、「本源登録」、「基本登録」があり、「高等登録」はこの3つの中で、繁殖成績や産子成績のほか、定められた6つの資格条件を満たした母牛に対して与えられる最高の登録です。今回の審査会では県南管内28頭、中央管内38頭の各地域で和牛改良の中核となるであろう母牛が受審し、体型測定後に全国和牛登録協会本部の植村氏を中心とした厳正なる審査を受け、県内で65頭が合格しました。

JA全農いわて畜産酪農部の後藤和彦部長(全国和牛登録協会岩手県支部長)は、「岩手の和牛改良の礎となる、高等登録牛が増えることにより産地力が向上します。ぜひ全頭合格し、いわて牛の発展に貢献してほしいです。また、9月に行われる宮城全共では、オール岩手として、生産者の思いを結集し、必ずや日本一を獲得しましょう」と岩手県の和牛能力向上に意欲をみせました。



審査を受ける和牛

農機メーカー48社が集結

6月10日(土)・11日(日)

JA農業機械大展示会

JA全農いわては、JAいわて花巻本店特設会場で「JA農業機械大展示会」を開催しました。この展示会は、JAグループが総力を結集して年に1度開催される大展示会で、JAグループの取扱いメーカー48社が最新農業機械を展示しました。

また、農業機械だけではなく、肥料・農薬等生産資材の展示、経営の相談コーナーを設けるなど、JAグループならではの総合力を活かした展示会となりました。また、農業用ドローンの紹介など、農作業を効率化・省力化することができるICT農業への提案も行いました。来場者は2日間で1,956名と、目標人数を大きく超え、会場は大きな賑わいを見せました。



1,956名の来場者で賑わいました



編集後記

7月、今月から2017いわて純情むすめの活動がはじまります。本誌9ページで紹介しているとおり、個性豊かな5名が揃いました。6月19日～20日に行った事前研修では、1つ1つぎっしりとメモ帳に書き込む熱心な彼女たち。今年は純白の衣装で皆様に元気いっ

ぱい、県産農畜産物をPRしていきます。また、来月初めには毎年恒例のさんさ踊りに参加しますので、皆様のあたたかいご声援をよろしくお願いします。

(小野)

商品の生産から販売までの流れを再確認

5月24日(水)

飼料用米田植え・産地視察研修会

神奈川・静岡・山梨を中心に店舗を展開している、「生活協同組合ユーコープ」は、JAいわて花巻・JA全農いわてと共に飼料用米田植え交流会を行いました。

JAいわて花巻営農推進部米穀販売課の畠山英剛課長指導の下、17名のユーコープの職員が花巻市湯口の圃場で田植えを体験しました。この研修会では、茶美豚(チャーミートン)生産農場視察・飼料用米田植え体験・豚肉加工視察等、茶美豚が生産から商品になるまでの一連の流れを体験することができます。茶美豚とは、ユーコープが鹿児島・岩手・茨城の農場を産地・飼料指定し、その指定農場の生産者が大切に育てた豚のことで、今回はその豚に給餌する餌米の田植え体験を行いました。

生活協同組合ユーコープ宅配商品部バイヤーの渡邊進一さんは、「この交流会で、職員は普段できないことを体験できます。生き物である豚が肉になるまでの過程を知り、商品を扱う上で、命あるものと理解しなければならないと思います。この交流会で得たことを職

純情産地いわての指定席確保に向けて

6月7日(水)

平成29年度花き販売対策会議

JA全農いわては、盛岡市内のホテルにて平成29年度花き販売対策会議を開催しました。県内各JA、生花会社や運輸会社などの20社が参加し、「マーケットインによる生産振興」、「オールいわて」としての販売戦略構築による販売強化、「生産・流通コストの低減」について協議しました。

重点市場・実需者への長期・安定供給実現に向け、JA間・集荷場間の連携などによる「オールいわて」として販売強化に取り組みます。

また、県内各JAの花き生育状況と重点推進案の確認や、本会議にご参集いただいた重点市場からの岩手県産花きへの具体的なニーズ・要望の共有が行われました。主要花き市場での展示フェアの実施、消費地からの情報(販売状況・品質評価など)収集、発信を強化し、「純情産地いわて」の指定席確保を目指します。



会議の様子

場で周知していきたいです。」と決意を述べました。



6月1日は「牛乳の日」

6月1日(木)

県産牛乳理解醸成イベント

JA全農いわて・JA・岩手県牛乳普及協会・岩手県は、「牛乳の日」の6月1日、酪農業への理解・関心を高めてもらうことを目的に、岩手大学ならびに県内3つの駅にて県産牛乳のPR活動を行いました。

雨のなか、関係者といわて純情むすめらが、学生に県産牛乳や理解醸成リーフレット等を配布し、牛乳の消費拡大を呼びかけました。同大学でのPRイベントは今年で2回目。昨年度より600本多く用意した牛乳1,600本は、開始30分程でなくなりました。

若い世代を中心に牛乳の消費量が減少していることを背景に、県牛乳普及協会の大鷲秀明専務理事は、「牛乳の美味しさや効能を見直すきっかけとなれば」と期待を語りました。



岩手大学で県産牛乳を配布する2016いわて純情むすめ

いわた JA-SS チェーン

わくわく サマー キャンペーン

平成29年6月1日(木)～8月31日(木)

いわた JA-SS チェーンのレシート・スタンプで

総勢357名様に豪華賞品プレゼント!

20,000円コース

3名様

北海道新幹線で行く
函館湯の川温泉
湯元啄木亭
1泊2日の旅

Canon
PowerShot
G9 X Mark II
シルバー

任天堂
Newニンテンドー3DS LL
パールホワイト
ポケットモンスター サン・ムーン

セットで
3名様

セットで
3名様

10,000円コース

15名様

お食事券
1,000円
5,000円分

いわちく「味工業」
ハム詰め合わせ
ギフト

食べくらべ
岩手県産米
(新銘柄)
金色の風・銀河のしずく
合わせて10kg

5,000円コース

300名様

いわた JA-SS チェーン15周年
オリジナルQUOカード
500円分

応募方法 キャンペーン期間中、指定のリーフレット兼専用応募封筒をご準備いただき、参加JA-SSにて取扱商品ご購入時に発行される[レシート]または[スタンプ]をご希望のコース分、レシートを同封(スタンプの場合はスタッフより押印)し、必要事項をご記入の上、のぼりのあるいわたJA-SSのスタッフへお渡しください。

当選発表 キャンペーン終了後、応募者の中から厳正なる抽選を行い、平成29年10月初旬、賞品の発送をもって発表にさせていただきます。
※なお、岩手県産米については新米が収穫され次第の発送となります。

詳しくはのぼりのある JA-SSへ!

JA-ss いわた JA-SS チェーン

チェーン本部 / 岩手県盛岡市上厨川横長根42-1 TEL.019-646-7283 <http://www.junjo.jp/ja-ss/>



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
<http://www.junjo.jp>

